

瀬部小だより 12月号

平成17年11月30日



1 総合的学習発表会終了

11月20日(日)に総合的学習発表会が開かれました。当日は晴天で、発表日よりでした。子どもたちの真剣な発表態度や笑顔に感心しました。

1・2年生は、生活科で学んだ遊びの紹介でした。3年生は、臼台祭りのお囃子の演奏と地域で学んだ学習成果の発表をしました。4年生は、エコスクール運動の発表です。身近なところで環境保護運動ができるのだと子どもたちは分かったようです。5年生は、福祉体験発表をしていました。地域の福祉施設を訪問して感じたことや車椅子体験コーナーなど工夫して発表していました。6年生は、国際理解を中心に、自分たちで調べたり、話し合ったりしたことを上手にまとめて発表していました。



保護者の皆様の応援と子どもたちのがんばりに、瀬部小学校の底力を心より感じました。1・2年の生活科も3年から6年の総合的学習の時間もまだまだ途中経過の発表です。今後ともに、いっそう学習を深めて、「自ら学ぶ力」つけて行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2 はや12月・・・教育は、信頼関係から

紅葉前線は、はや平野部を覆い尽くそうとしています。学校では、二学期の学習のまとめに努力しています。



学校は、保護者との信頼のもとに成り立っています。保護者が、「学校が信頼できない。担任が信用できない。」では、教育は成り立ちません。教育は、教える側と教えられる側の信頼に基づいて成り立っています。しかし、教師が教える立場で、子どもが教えられる立場だけかというところではありません。実は、教えている教師は、教えるために勉強しなければなりません。教えようとする中で、教えられているのです。子どもと教師の信頼関係の中で、教え、教えられると「共育」が成り立っています。

子どもたちばかりでなく担任にもエールを送っていただける保護者の皆様の存在のお陰で、瀬部小学校は成り立っています。様々な疑問やご意見は子どもたちのために遠慮なくお申し出ください。今後ともよろしくお願いいたします。

3 プルタブ10月16日朝礼

10月16日(月)の全校朝礼で、3年のM・Kさんの手紙を紹介しました。

お願いがあります。かんかんのプルタブをみんなで集めてくれないませんか。

なぜ集めたいかというと、プルタブを集めると、市民病院の車椅子が増えるので、私は集めて市民病院の車椅子を増やしたいと思います。お願いします。(M・Kさんの手紙)



「プルタブ」というのは、缶ビールや缶ジュースの飲み口などを開けるとき、指をかけて引くつまみの部分のことです。そして、プルタブだけは、スチール缶でも錆びないようにアルミだそうです。ですから、プルタブは小さいけれど、立派なアルミ資源として活用できます。標準車椅子は1台およそ7万円位です。プルタブ160万個がアルミ800kgに当たります。ある学校では、みんなで協力して集めたら、2週間でバケツ2杯以上のプルタブが集まりました。バケツ一杯に入るプルタブは、約4000個だそうです。そうすると、



プルタブ約160万個を集めるのには、なんとバケツ400杯も必要です。プルタブ回収運動は地域社会の美化、省資源化にもつながります。「公害を生み出さない人づくり」と「空き缶散乱公害をなくす」予防にもなります。ユズリンが1年3組を担当した時の紳ちゃんのお父さんは車椅子でした。M・Kさんの考えは、ほかの人のためにボランティア運動をしようという考えです。みなさんは、M・Kさんの考えをどう思いますか。どうしたらよいか考えてみてください。」(講話の趣意)と言って、そのままにしておきました。

11月24日(木)の朝、5年のA・Kさんから、「先生、プルタブ100個集めました。」と手渡されました。感動しました。子どもたちは、覚えていたんだなと思いました。5年の担任からは、「ほかにも、うちのクラスでは、集めている子います。」と言われ、ああ5年生は福祉の実践をしていたのだと思うと心がさわやかになりました。

4 見守りボランティアのお願い

現在瀬部小学校の登下校の見守りボランティアは、20名の方が参加されています。心より御礼申し上げます。「安全は、子ども自身が守るもの」の原則は変わりありません。しかし、広島の小1年生の下校中の事件ではありませんが、世の中は、ますます世知辛くなっていく傾向にあります。できたら、増員できるとありがたいと思います。窓口は、瀬部小学校の教頭(電話28-8708)です。ご連絡いただくと幸いです。